

2.<設問>受給後の進路について ～ ほぼ全員が学業を継続し、就職、院進学されました!

●制度開始以来、初めて受給後の進路についてお聞きしましたが、退学された方は1名という結果になりました。ほぼすべての方が、学業を続け、就職や大学院に進学されており、当奨学金が学業継続の一助となっています(別項6でも御礼が多数寄せられました)。

受給後の進路について	回答数
卒業して就職	45
大学院進学	15
卒業後海外留学	1
就活中	1
退学	1
計	63

3.<設問>個人賛助会員として今後協力していただくことは可能でしょうか

～ 約70%の方が今後賛助会員として協力しても良いと回答!

●今後、当財団に個人賛助会員になってご協力いただけるかどうかお聞きしました。その結果、「協力できる・3名」「今は難しいが将来協力しても良い・41名」となり、約70%の方が賛助会員として協力していただけるうれしい回答となりました。また、寄付なら協力できるとされた方も6名いらっしゃいました。

●在学中に給付を受け、頑張ってお勉強を続けられた皆様にご協力いただけることは、「たすけあい」の意味でも大きな力になっていただけたと思います。

当財団ではHPから加入する個人賛助会員制度がございます。個人賛助会員としてご協力いただくことは可能でしょうか。	回答数
協力できる	3
今は難しいが、将来協力しても良い	41
寄付協力はできるが、賛助会員にはならない	6
協力できない	11
まだわかりません	2
計	63

4.<設問>扶養者を亡くされた学生に、卒業までのアドバイスやエピソードをお聞かせください。

～ 学業を続けるための制度は探せばある、頼れる人は周りにいるので一人にならないで頑張って!!

●「扶養者を亡くなった後は精神的にも辛いと思うが、学業をあきらめず頑張ってほしい」という励みや「頼れる人は周りにいるので1人にならず頑張って」、「奨学金や公的な援助や貸付、継続出来るあらゆる方法、手段を探してみてください」という学業継続に役立つ制度は探せば多いので是非とも活用して頑張ってというアドバイスが多く寄せられました。

5. <設問>(経済的理由などで学ぶことが厳しい学生に対する)国や大学の援助のあり方についてご意見をお聞かせください。

～ 学び続けるための制度を充実してほしい。

●学ぶための制度やサポートは整っているというご意見もありましたが、全体として、家庭環境に関係なく学ぶ機会を奪わないことが大切、学び続けるための制度を充実してほしいという意見が多く寄せられました。その中でも、事情にあわせてより幅広い援助制度や利子なし・給付型の奨学金の充実、学費免除制度を広げてもらいたいなどの意見が複数みられました。

●また、いろいろな援助制度がある一方、探するのが難しいという意見と、奨学金などの手続きがもっと簡単になれば良いという意見も複数寄せられています。

●コロナでますます学ぶ事が厳しい学生が増えていると思います。授業料の納付の期間の延長などの援助があって良いと思います。

6. <設問>当財団の援助のあり方についてご意見をお聞かせください。

～ 支援していただいて、大変たすかりました。これからも続けて。

●「助かりました。ありがとうございました」という御礼、「すばらしい制度なので今後も続けてほしい」といううれしいご意見が多く寄せられました。また、「助けてくれる人がいるのだと勇気づけられた」「皆さんの善意を感じた」とたすけあいの想いを感じてくれたご意見もありました。

●制度への要望として最も多かったのは、奨学金を増額してほしいというものでした。これは財源との関係もありますので、中長期的な課題となります。また、スムーズに給付していただけたという声がある一方で、申請が大変だったとされる方もあり、扶養者を亡くされて大変な状況の中、申請の負担をできる限り軽くすることは改善課題といえます。

Ⅲ.各設問でのご意見やメッセージ(掲載可より抜粋)

設問：経済的理由などで学ぶことが厳しい学生に対する、国や大学の援助のあり方についてご意見をお聞かせください。

◆そもそもお金がなければ大学に通えない仕組みや高額である以上、色んな奨学金制度があっても安心して学べないのではないのでしょうか。

(関西学院大卒・母)

◆貧困世帯だけでなく、低所得世帯にも広く充実した支援があると安心して進学できると思います。また、授業料免除等の制度や手続きを、国公立は共通にするなど工夫してもらえると、負担が減るかなと思いました。(東京学芸大卒)

◆私立大学の入学金、授業料は年間 100 万から 150 万。卒業するには 500 万円かかります。唯一の頼み綱の奨学金はいわば借金。我が家も子供達にとって返済がかなりの負担になっています。そんな大学に二の足を踏む若者が多いのは当たり前です。家庭環境に関係なく自由に学べる国であってほしいです。(中京大卒・母)

◆休学や留年をしていたために大学の奨学制度を利用することができず、複雑な心持ちでした。限られた財源で給付対象者を選ぶならば、学業が優秀な人という理屈も理解できます。しかし、家庭の事情で(家庭の収入は多いが親が使ってしまう自分にはまわってこない)支援の対応から漏れ、必死でアルバイトをするかたわら学業にもなんとか取り組んできた身としては、成績などで足切りされると苦しいものがあります。今の仕組みだと、一度学業不振になってしまった人が助かっていく道のはかなり険しいものであると感じています。理想は、家庭の収入に関わらず、学生が助けてと声をあげたら無条件に助けてもらえるといいのと思います。もっと早い段階で援助を受けることができているならば、成績も留年も今とは違ったものになっていたかもしれないと考えることがあります。(愛知教育大卒)

◆大学の援助はたいへん助かった。一方、国の補

助制度はあまり当てにならない。条件が厳しく、在学中の援助はあまり見込めない

(電気通信大・院)

◆今は比較的簡単奨学金を借りられる様に思います。そして返ってこない奨学金もあると言います。ただ何となく大学に入るために借りる人が多い様に感じます。本当に勉強したいのか見極めるのは大変だと思いますがそれこそ審査を厳しくした方が良いでしょう。気がします。

(千葉商科大卒・母)

◆私の場合色んな所に聞いて回りましたが学生さんがそれを出来るかどうかは疑問です。学校側からこういった支援を受けられるかもしれませんという直接の電話サポートがあったほうが良いかもです。(桜美林大卒・父)

◆援助するシステムについて必要な人に情報が行き届きづらいかなと思います。実際自分もこの奨学金の存在を知るのに少し時間がかかりました。センシティブな問題なので中々難しいですが、もっと大々的にアピールしてもいいと思います。(法政大卒)

◆コロナ禍になり、様々な立場があるのはわかりますが、大学は義務教育ではなく、自己責任という意見を耳にした時は、しばらく考え込みました。理解は出来ませんが、誰も経験していない、誰も悪くないという状況下においては少し乱暴な意見な気がしますし、もし自分が父を亡くした直後に言われていたら、精神的にキツかったと思います。

(長崎大卒)

◆経済的理由で、将来の選択肢が少なくなることは本人にとっても、国にとっても不利益でしかない。そのような状況を作らないためにも援助制度はしっかり整備されておくべきだと思います。

(埼玉大卒)

設問:扶養者を亡くされた学生に、卒業までのアドバイスやエピソードをお聞かせください。

◆4年生の卒論を本格的に取り組み始めた時期に父が亡くなりました。大学の奨学制度は利用することができず、また、父の治療などのための費用がかさんでいたので、経済的に苦しくなりました。アルバイトを増やすと勉強に充てられる時間が減ってしまうと困っていたときに、たすけあい奨学制度の奨学金を受給することができて助かりました。」他にも、たすけあい奨学制度の案内で、似たような境遇で頑張る学生のメッセージを読み「私だけが大変なわけではない」と思うことができました。この奨学金は寄付金で成り立っていることを知り、間接的に多くの方々に応援していただいていると感じて精神的にも大変励まされました。そして、今度は自分が困っている人を助ける側にまわりたいという気持ちが芽生え、ここで諦めずにきちんと大学を卒業して就職しようというモチベーションになりました。本当にありがとうございました。(愛知教育大卒)

◆父を亡くした当初は、金銭面の不安から、このまま大学に居続けてもいいのかと不安になることが何度もありました。ですが、大学生活でしか学べないことがたくさんあります。就職してから、バイトやサークル、ボランティア等大学での経験がとてもとても活かされています。使える支援はすべて利用して、大学生活は悔いなく様々なことにチャレンジして欲しいなと思います。

(東京学芸大卒)

◆父親を亡くした後、本制度の奨学金や保険金を活用し、当初は予定していなかった半年ほどの語学留学に行きました。そこで培った経験、能力を活かして復学後の研究や就職活動に精を出し、今は社会人として勤めています。それら資金は少しばかり早い父からの最後の贈り物だと捉え、私は自身の将来のため活用することにしました。(大阪市立大院卒)

◆扶養者を亡くすことは、学生の皆さんにとって

余りにも早すぎる出来事だと思います。わたしが父を亡くしたのは4回生の時だったので、経済的負担は少ない方でした。コロナ禍の中、バイトも満足にできない状況でもっと早くに亡くしていたら…と思うとぞっとします。家族のこと、お金のこと、常に不安は付き纏うと思います。わたしからできるアドバイスはただ一つです。それは、大学や生協の制度、保険等、今この状況で活用できるものは全て使うということです。全て利用した上でどうしようもなければ退学する、という選択も出てくるとは思いますが、よく調べずに安易に退学を選択するのは勿体ないと思います。あと数年で、自分でお金を稼いで安定することはできるので、頑張ってください。周りを頼って大丈夫です。(愛媛大卒)

◆扶養者を亡くす=生活が厳しくなる。その中で学費は本当に困難です。我が家も学生の父親が闘病の上他界。でも継続したいという一念で奨学金や公的な援助や貸付、継続出来るあらゆる方法、手段を探してみてください。まずあなた自身の未来を大切にしてください。卒業する事で得られるものは大きいです。自分と残された家族の為にあきらめないで。(中京大卒・母)

◆息子が先日、高校生くらいの時のビデオを見ながら『この頃はまさか父さんがあと何年後かに亡くなるなんて思ってもなかったなあ』とポツリと言いました。皆さんも同じ気持ちだと思います。今はコロナ禍で難しいかもしれませんが、親としては大学でよき友達や先輩、後輩との関係を築き、自分の人生を堂々と切り開いて歩んでもらいたいです。(滋賀大卒・母)

◆今は本当に何も考えずに、自分中心で生きてください。自分がしんどい思いをしてしまうであろう、環境や人と関わるのは避けてください。そうすれば、段々と落ち着いてくるとは思います。(関西学院大学卒)

◆ 助けてくれる人は必ずいますし制度はあります。必ず相談してください。やりたいことを断念しないでください。(京都大卒)

◆ 亡くなってからかなりの喪失感に苛まれます。ただ、周りを見れば必ず仲間がいます。1人じゃないんだということを忘れずに今までの努力を活かして卒業まで頑張ってください。(群馬大卒)

◆ 友達を大切にしてい辛い時は相談するのいいと思います。相談できる人がいない時はカウンセラーを頼るといいと思います。(慶應義塾大卒)

◆ 私も父親を在学中に亡くしましたが、奨学金を受けたことでその後も通学することが出来ました。就職活動間際でショックは大きかったですが、友人や大学のサポートもあり、気持ちの切り替えをすることが出来ました。(広島大卒)

◆ この機構のお陰で学業を断念せずに卒業就職に至る事ができました。周りの方々の中には陽に陰に支援して下さいの方々が必要ですから力を落とさず学業に精進して頂ければと思います。(桜美林大卒・父)

◆ うちひしがれ、なにも考えられなくなる期間がありますが、身近な誰かを支えるために自分が何とか頑張るんだと奮い立たされました。自分の頑張りを故人もきっと喜んでくれるだろうと思い勉学に励みました。(山形大卒)

◆ 自分や家族だけで考えるのではなく、学校に相談することで道が開けることもあります。(松山大卒)

◆ 私は父を大学3年の12月に亡くしました。3月から就職活動が始まり、会社に赴くことが増え交通費や面接と面接の間にお昼御飯代がとても積み重なり、出費が増えていきます。就職活動に力を入れている間、アルバイトも難しかったためこれまでの貯金や、奨学金でやりくりしましたが、これまで支援してくれていた父の偉大さに気づかされました。

みなさんは後悔がないように、両親とよく話す機会を設けてください。私の父は、私の就職先を知

らないままです。就職活動について相談できなかったことを未だに少し後悔してたりします。(成蹊大卒)

◆ どういうときであっても救済制度は必ずあるので、どうか折れずに進みたい道に進んでください。(大阪市立大卒)

◆ 娘が大学3年の時に、主人が病気で亡くなりました。奨学金は借りていなかったのですが、大学の事務の方の助言もあり、成績も足りていたので、奨学金を借りる事にしました。

とりあえずは、大学の事務の方に相談する事が一番良いと思います。(長崎県立大卒・母)

◆ 家族を亡くするのは辛いとは思いますが、補助する制度はたくさんあるのでそれを有効活用して頑張ってください。(電気通信大卒)

◆ 大変かもしれませんが時間が解決してくれることもあります。頼れる人をどんどん頼って、無理せず頑張ってください。(電気通信大卒)

◆ 卒業はしましょう。(東京工芸大卒・母)

◆ 辛い時期でも1人の悲しい世界に閉じこもらないで、無理をしない程度に、友達と過ごしたり好きなことをしたりする時間を作ることが大切です。(東洋大卒)

◆ 気持ちが折れそうになったこともありますが、奨学制度を通して応援して下さる方々の想いを忘れず、勉学に励むことができました。頑張りすぎず、自分を大切に。(東洋大卒)

◆ 奨学金はたくさんあるので、いろいろ応募したら大丈夫です。(徳島大卒)

◆ いまは辛く大変な時期かと思いますが、どうか希望を持ち続けてください。(奈良県立大卒)

◆ 自分の場合は専攻内容が好きだったので学ぶことを諦めたくありませんでした。そんな中で援助をいただけたのは本当に助かりました。学業や学生生活を諦める前に何か使えそうなものはないか探してみてもいいと思います。(法政大卒)

◆ 扶養者を亡くされた瞬間はとても辛いです。そのあとは自分が生きていけるか学校に通えるか心

配になりますが、周りの人が助けてくれるので、そこまで深刻に考える必要は無いと思います。(北海道大卒)

◆ 扶養者が亡くなったとしても学業の継続を諦めないでほしいと思う。この奨学金制度を含め、学業を援助してくれる制度はいくらでもあります。扶養者が亡くなるのはショックですが、お金の問題は無くならないので、まずは大学の教務に聞くなり、ネットで探すなどしてお金の確保先を冷静に探してほしいと思います。(名古屋大卒)

◆ 大学には授業料の免除制度など、支援してくれる制度があります。急な出来事で直ぐに立ち直ることは難しいとは思いますが、少しずつでも前向きに行動を起こすことが大切だと思います。(名古屋大卒)

◆ 父が亡くなった時は4年生で就活も終わっていましたが、父が体調を崩し働けなかった時、私は就活中でバイトもあまり出来ず、母の収入だけでは

金銭的に厳しい時がありました。それだけの理由ではありませんが、万が一母親1人になっても、自分の子供を育てられるくらいの収入を得られる可能性がある職業を選びました。(明治学院大卒)

◆ 父が急死したため、生活費の工面どころか学費さえも支払っていけない手段がなく、途方にくれていたときに、ゼミの教授が学費全面免除(大学独自のものを)を紹介いただき、大学を辞めずに過ごせました。わたしは既に3回生でしたので、アルバイトの時間を増やしたりすることで生活費の工面をしていました。(立命館大卒)

◆ 苦しい時期が続くかと思いますが、自分の将来を思い描き、前向きに大学生活を送ってください。(立命館大卒)

◆ 辛いことが多いと思うけど、その先に楽しいことがあると思って頑張っていきましょう。(龍谷大卒)

設問:当財団の援助のあり方についてご意見をお聞かせください。

◆ 生協の保険に扶養者死亡の特例があったのでその申請を知ったときにこの奨学制度を知った。金額は他の奨学金と比べて少額だが、申請も簡単で申請してから審査や給付も早かったので、とりあえずのお金には困ることなかったので非常に助かった。緊急時にはとても助かる良い制度だと思う。(名古屋大院)

◆ 困窮する学生の支援は、自分も非常に助けられたので、ぜひ今後も継続してほしいです。学生が大学を卒業して働き始めれば、広い目で見て、給付した額以上のものを社会に還元できると考えています。

審査の流れは作文と死亡診断書の最低限の書類提出のみで、簡素でわかりやすかったと記憶しています。もし、家庭の財務状況がわかるものや成績証明などを求められていたならば、そもそも申請

をしていなかったと思います。給付の金額は、10万円が1度だけなので、これだけで今後の学生生活を賄うには足りないと思います(入学まもない学生は特に)。ただ、私にとっては「助けてくれる人がいるのだ」と勇気づけられるには十分な額でした。(愛知教育大卒)

◆ 子供の学費や生活費を作るために、奨学金等などの制度をたくさん検索しました。でもどの制度も大学に通わせるには到底足りません。悲しみの中にいるのに更に追い討ちをかけられているようでした。もっと金額を増額してほしいです。そして広く制度を知らせてほしいです。私は申し込みギリギリでこちらの制度を知りました。

(関西学院大卒・母)

◆ 大学在学中に利用させて頂き、大変お世話になりました。日々の制作費用や外部の展示会見学費

